

(第3種郵便物認可)

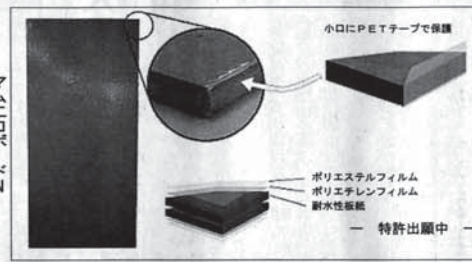


第二京阪道路で400²m施工



宇治田社長

サンゴマム販売



紙をベースにした高強度の高厚板紙の開発に成功した。ただ紙はアルカリ性に弱く、コンクリートもアルカリ性のため、紙製型枠とコンクリートとの間に緩衝材が必要だった。紙製型枠の両面に張る緩衝材は、最終的に度と耐熱性に優れたPET（ポリエチレンテレフタレート）フィルムに決めた。薄膜のPE（ポリエチレン）と重く張ることになった。これによりコンクリートの流動性が向上し、美しく仕上がることも

古紙再生型枠でコンパネ市場参入

確認できた。研究開始から約2年で紙製型枠の原型ができあがった。紙製型枠は、リサイクルが容易なのに加え、繰り返し使用しても、水分を含んだままでもPETフィルムの表面をふいて平たん性を維持すれば、合板コンパネより仕上がりが美しく、転用回数も2〜3回多くなる。また合板コンパネでのコンクリート打設時に不可欠な離剤の塗布が省略できる特徴もある。

製品は、厚さ6mmと受注生産の厚さ9mmの2種類がある。いずれも長さは1.8m、このうち6mmの製品は幅が60cmと90cmの2タイプをそろえた。06年目から販売を強化し、これまでに3万6000枚以上を販売した。

これまで6mm厚の製品を主力としていたが、紙製型枠を支える機木（さんざ）の数が合板コンパネの使用時より多いため、より強度に優れた9mm厚の製品の量産化を進めており、機木使用数をほぼ合板コンパネと同数に削減できることを目指した。また紙製型枠の断面に使用する防水テープも樹脂に置き換え、コンクリート表面にテープあとが残らないよう改良中。今夏に9mm厚の新製品を市場投入する予定だ。

土工事で採用例が多いが、コンクリートとは異なる性質があるため、建築工事のスラブ・コンクリート打設用にも向いている。またシックハウス症候群を引き起こす成分が含まれる離剤や教育施設などへの採用を広げたいと考えている。

合板コンパネとの価格競争力を備えるために「月2万枚出荷」が当面の目標。そのためには全国各地で営業拠点の拡大が急務となる。

＜サンゴマム販売＞
 ▷資本金—1500万円
 ▷所在地—大阪市西区西本町1—13—38西本町新興産ビル3階
 ▷設立—2006年10月6日
 ▷代表者—宇治田友紀社長
 ▷事業内容—建築資材販売

(3) 2010年(平成22年)5月13日(木曜日)

日刊建設工業新聞

工事用車両



工事用車両内に設置されたGPS安全運行システムの端末

速度超過に音声警告

竹中土木、西尾レントールGPSで運行管理

竹中土木は、西尾レントールと共同で、音声利用型システム（GPS）を使用して、トラックなどの工事用車両の位置や速度情報を管理し、状況に応じて注意喚起の音声警告を発する「GPS安全運行システム」を開発した。運転手への音声警告により速度超過の防止や、スケジュールなどの危険ポイントでの検知指示などができるのが特徴。同システムを使って工事用車両の安全性を高めたい。

同システムはGPSから得られた位置情報を工事現場事務所や管理センターに送信し、その管理用パソコンに送信する。

連結経常益400億円目標

コベルコ建機 中国、インド市場期待

コベルコ建機は12月、10年度から13年度までの連結売上高400億円、経常利益70億円、株主総数400万人を目標に掲げた。海外市場への展開を推進する。また、売上高の約8割を海外市場で稼ぐことを目指す。事業の占める割合が過去最大の68.8%、売上高全体の比率では、国内事業

企業